

平成30年度 浜竹保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 「保育所保育指針改定」について引き続き全職員で改定の背景と「就学までに育てほしい姿」10項目について園内勉強会やクラスの年間指導計画の期ごとの振り返りの際、実践と照らし合わせ理解に努めました。
- 大田区委託園としてキャリアアップ研修の扱いについて検討されていない状態で、東社協や東京都の研修にも参加できない現状があります。しかし、可能な研修には参加しました。また大田区主催の研修には、毎回複数参加させるなど勉強の機会は多くしました。
- 災害時対策として地域との連携や関係を広げていく計画であったが、「近隣老人施設」との交流がスタートしたもの町内会や近隣学校との避難訓練は実施できず、次年度への継続計画とします。
- 30年度は保育士4人が育児休業復帰となりました。それぞれの子どもの入園慣れ保育や体調を崩して突発休暇などが重なりクラス運営に苦慮する時もありましたが、全職員で声掛けや手伝いなど協力する意識が高まり混乱なく保育することができました。しかしシフトにおいては一部の職員に負担感があつたようです。

- ②定員 140名（大田区との協定によります。） 3月末137名の在籍でした。
（30年度より前期・後期に分け各1名予約制導入）
前期分として4月に1未入所・2月に後期分1名入所し定員17名に達しました。
*緊急一時保育実績 1人 保育日数10日間

- ③事業日数 296日（12月29日～1月3日までは大田区の規定により休園）

- ④開園時間 月曜日～土曜日 7時15分から20時15分
休日 （30年度は、4月・5月・6月のみ実施）
8時30分から17時30分
*休日保育実績4月3回延べ4人・5月2回延べ2人
計5回6人の利用 6月利用なし

- ⑤緊急一時保育 *利用実績 1人：延べ利用日数10日間

- ⑥保育時間（月曜日～土曜日）
早朝保育 7時15分から 8時45分
通常保育 8時45分から18時15分
延長保育 18時15分から20時15分

- ⑦職員数 園長1名、主任1名、副主任1名、保育士名22名
(4月中旬育児休業復帰者1名含)(5月末1名退職)
看護師1名(30年2月中旬より病気休暇、10月末退職)
その間、非常勤看護師及び派遣看護師雇用
31年1月より正規看護師雇用
栄養士1名、調理員4名、保育補助員1名(朝夕専任)
非常勤保育士5名(うち2名延長保育専任 週15時間)、
パート(早朝保育補助員)2名、
嘱託医(大田区の指定による) 内科医1名、歯科医1名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 十分に養護の行き届いた環境の下、子ども達が主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え自己を十分発揮し人として『生きる力』をはぐくむ。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。
- 保育所職員の専門性を活用し、在園児及び地域の子育て支援を行う。

③保育目標

「共に遊び 共に育ち合い 学びに向かう子」

1. 友達と一緒に遊び、楽しみながら様々な体験を重ねる中で、考えたり工夫したり、協力したりしながら主体的に行動する力を身につける子ども
2. 互いの思いや考えを共有したり、自分と異なる考えに気付いたりしながら学びに向き合い、互いに育ち合える子

④クラス編成及び職員配置

0歳児	かめ組	17名	保育士7名(産休明け要員1名・要支援児担当1名)
1歳児	かに組	21名	保育士4名(要支援児要員1名)
2歳児	ぺんぎん組	23名	保育士4名(園児1月末1名退園)
3歳児	いるか組	26名	保育士2名
4歳児	とびうお組	26名	保育士2名
5歳児	くじら組	24名	保育士2名
	・乳児フリー		保育士1名

(園児在籍数 137名) (保育士 22名)

- ・主任保育士 1名 ・副主任保育士 1名
- ・短時間保育補助 5名 (非常勤保育士 有資格)
- ・早朝保育補助 2名 (パート) ・延長保育補助 2名 (パート)

⑤保育内容

- 乳児クラスは担当制・少人数保育の充実を目指し、一人一人の子どもの発達や担当時の活動内容などクラス打ち合わせを丁寧に行い、環境をその都度見直しました。そのことによりそれぞれが満足し落ち着いて遊べたようです。幼児各クラスについては、狭い保育室ながら各クラスクルーダウンする居場所を設けることにより、気持ちの不安定な児が早く切り替えられるようになりました。
- 平成30年度は、乳児クラスに要支援対象児が4名いました。(脳性麻痺1名・運動精神発達遅滞1名・難聴児2名) 訓練通所に同行し、摂食やリハビリの仕方を学びました。また、難聴児に対しては、通所先の先生に来て頂き、保育実践を観察後、援助の仕方について助言を頂き全職員で学びました。
他、「子どもの人権尊重と最善の利益」をめざし、要支援児対応や保護者対応など全職員で、ケース検討を行うことにより情報の共有と丁寧な子ども対応が大分出来るようになりました。
- 平成30年度より外部講師による幼児クラスの運動遊びの時は、気持ちの切り替えや、やる気を引き出すため体操着になって行いましたが、まだ各クラス4から5名、意識の薄いご家庭があり徹底できない状況です。
- 生活リズムや生活習慣(顔洗いや歯磨きなど)について全体に意識が薄く、毎朝子どもと確認していますが、なかなか高まらない現状があります。
- 年長児は30年度より自分の持ち物は自分で持つことを習慣づけるため、登降園時リュックサックを背負うことにしました。殆どの子が自分で支度し管理できるようになりましたが、最後まで声かけの必要な子が3名ほどいました。

⑥家庭との連携

- 保育所保育指針改定についての背景や現在の子どもの育ちと課題について、保護者会やお便りを通して情報提供しました。また、「3つの視点と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について保護者会の時に各年齢、項目を写真に置き換えながらパワーポイントで説明しました。保護者の方から「わかりやすかった。」と好評でした。
- これまでの保育参観や保育参加に「保育士体験」を提案しましたが、難しく考えてか2人ほどの参加となりました。保護者会で事前に丁寧に説明する必要があると反省しています。
- 毎月の園だより作成にあたり、保護者や職員から子育てや遊び場所また食育など身近な情報原稿を寄せて頂き、掲載することにより少し関心が広がったようで保護者から感想をお伝えして頂けることもあります。

⑦人材育成

- 園内勉強会のテーマとして「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」として、10項目と3つの柱について保育実践記録を持ち寄り学び合いました。(全体会2回・グループ別各1回)
また、パワーポイント作成の際もみんなで項目にあてはめながら作成しました。理解の差はありますが学びとなったようです。
- 乳児は愛着関係重要性を話し合い、日々ひとり一人への丁寧な関わりを実践し評価しあい保育を進め、子ども達の表情から手ごたえを感じたようです。
- 保護者支援及び要支援児対応など難しいケース対応について、3年継続で外部講師の助言を頂きながらケーススタディを行ってきました。全体で情報を共有し考え合うことにより難しいケースもみんなで支え合うようになりました。
- 大田区主催の研修(保育内容7回14人・相談援助技術:7回4人・要支援児対応7回11人・その他専門分野研修7回12人)、幼児教育センター主催:運動リーダー講習会や幼保小合同研修、公立保育園主催の公開保育などにも参加しました。
また、東京都及び社会福祉協議会5回5人・その他サマー研修やダンス講習会などに経験の浅い保育士が積極的に参加しました。
園内勉強会として外部講師による研修も行いました。
- 職員一人ひとりと年3回行っている育成面談の日程調整が上手くいかず、1回の期間が長くなってしまいました。仕事への取り組みに消極的な人への意識づけが課題です。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業・地域交流

- 地域の子育て中の親子を対象に月1回の子育て支援活動「はまっこクラブ」を7回開催し延べ50人の参加となりました。水遊びは猛暑のため中止しました。また、“年末お楽しみ会”行事にも6組の参加がありました。
- 地域の子育て中の方を対象に栄養士・調理師による「離乳講習会」を2回実施しました。
参加者は15人で大変好評でした。
- 大田区の取組みとしての育児応援システム「育児応援券」を9人利用されました。
- 地域の保育園、児童委員や保健師、子ども家庭センター、児童館など、地域関係者会議(年2回)に参加しました。保健所での活動には参加できませんでした。
- 保育園のそばにある老人施設「そんぼの家」との交流を7月から始めました。4歳クラス・5歳クラスの園児が施設に出向き一緒に簡単なゲームや歌を披露し大変喜ばれました。回を重ねていくうち園児も楽しみに訪問するようになりました。

幼保小中との連携事業

- 東糀谷保育園と6月・9月・1月・3月の4回交流会を実施しました。公園でのゲーム遊びやラリーそして、1月はお互いの発表会の演目の披露を行いました。回を重ねるごとに積極的な関わりがみられるようになり次の交流に期待するようになりました。
- 萩中小学校との交流については、年長担任が積極的に学校担任とやり取りし交流をしました。

5年生1クラス25人の生徒が考えた遊びを年長児に教えながら遊んでもらい楽しんでいました。また、2月には年長児が小学校に行き1年生に授業体験のお手伝いをしてもらい、学校への期待を抱いたようです。

- 地域の中学校3校より3日間ずつ（糀谷中学校6人・いずも中学校6人・羽田中学校3人）体験学習受け入れました。

⑨苦情処理

- 子ども同士のトラブルから発生した職員対応への不満や要望が1件ありました。保育士間で情報の共有し保護者の精神面を考慮しながら時間をかけて対応しました。またトイレの臭いや廊下のごみなどに対する要望がありました。速やかに改善するとともに、お便りで改善方法をお知らせしました。

⑩リスクマネジメント

- 年度初めに全職員でサービス規定や危機管理マニュアル（安全保育含む）について確認、周知徹底を図りました。
- 今年度は非常勤や派遣看護師による保健業務のため職員への保健に関する啓発活動が計画道理出来ませんでした。蒲田消防署での救急救命資格取得の他、園に来て頂きAED講習を受けました。
- 嚥下・窒息に配慮の必要な乳児が在籍しているため、訓練機関に同行し接触指導を見学したり助言を受け職員間で共通理解を進め、安全な提供に努めました。「食育ガイドライン」の変更点や要注意店について栄養士のアドバイスを受けながら全職種で共通理解と安全な業務遂行に取り組みました。災害時の給食提供基準について大田区栄養士会マニュアルをもとに浜竹保育園としてのマニュアルを栄養士と調理師が話し合いを重ね作成しました。
- 災害訓練について、交流している近隣中学校への避難訓練を計画していましたが、日程調整ができず実施まで至りませんでした。3月に入り糀谷地区としての取り組みについて糀谷出張所と糀谷出張所長から説明を受けました。今後は地域の動向を見ながら進めます。

⑫その他

- ・お昼寝コットからマットへの切り替えは、シーツ準備の課題がはっきりしていないので、次年度に先送りにしました。
- ・床・ドアなどの剥がれや歪みの補修は大田区に依頼し部分的に補修して頂きました。1階トイレの壁紙の張替は見送りとなりました。
- ・園長用ノートパソコンを買い替えました。
- ・大田区より、テント1基・事務机2台・跳び箱1セット・空気清浄機3台・空気消臭殺菌装置1台購入して頂きました。